Message

学びを深め、理論と実践力をもった教員をめざして

在学生から

徳丸 裕恭さん

生活支援看護学分野　母性・小児看護学領域

現在、大学の助手として勤務しています。実習などを通して学生と関わり、成長していく姿をみてやりがいを感じ、小児看護学の教員を目指しています。学生が主体的に考え、思いやりの心を持ち、人として成長できるように導いていきたいと考えています。その目標に向けて小児看護の学びを深め、理論と実践力を高めることが必要だと考え大学院へ進学を決めました。

共通科目では研究方法論や看護理論などを学び、専門科目では小児・母性看護学を中心に講義だけでなく、助産師や医師からの現場の話も聞くことができます。また総合大学のメリットを活かした看護と環境といった科目のように、学内の他学部の教科を受講することができます。横断的な学びによって研究の幅も広がり、多角的な視点で見ることの重要性を感じています。本学看護学研究科は昼夜開講制です。勤務状況に合わせて講義の時間を調整していただくことで、学業と仕事、家庭の両立が継続できています。

看護の視野を広げ、研究を進めていく

修了生から

小原 聖子さん

生活支援看護学分野　母性・小児看護学領域

臨床に出て25年、看護師として海外を含め様々な場所で従事してきました。現在は大学院での研究テーマでした放課後デイサービスで、障害や医療的ケアを必要とする子どもと、その家族を支える仕事をしています。大学院への進学の理由は、以前訪問看護をしているとき、ケアを必要とする子どもを持つ家庭への支援やサービスが平等ではないことを感じ、その疑問を突き詰めたいとの思いから決意しました。

大学院での研究では、臨床での実践を経験してきたことで、難関に思えた理論や方法論も納得できました。論文作成では、丁寧に、そして辛抱強く導いていただきました。振り返れば、先生がたは一人の研究者をどう育てていくかのロードマップがイメージされていたと思います。大学院への進学は看護の視野を広げ、研究を進めていくうえでも人間関係を広げ、進むべき方向を導いていただき、得るものが多い貴重な2年間でした。

看護管理者としてマネジメントを学ぶ

修了生から

川﨑 由香さん

看護管理学分野　看護管理学領域

現在、総合病院心臓センターの心臓外科・循環器内科の師長として勤務し、15年以上看護管理者として、看護サービスや看護師の育成や職場の定着など、日々の課題と向かい合いマネジメントをしています。また集中ケア認定看護師の資格を持ち、院内急変対応チームの一員として活動も行っています。

これまで管理者としてマネジメントが感性や感覚に頼ってはいないかと疑問が芽生え、いかに看護師の定着を促進し、看護のクオリティを維持するかということを自分の課題として、研究に取り組むことで、突破口を見つけられるのではと思い、大学院の進学を決めました。講義やゼミでは、日常の実践とすり合わせながら看護管理を深めることができました。先生がたの手厚いサポートのお陰で、探求したい事柄について熟考する機会が得られ、論理的な思考や概念化能力が向上したと感じています。試行錯誤の繰り返しから得られる充実感を、みなさんも感じてほしいと思います。

「看護とは何か」を見つめ直す機会に

修了生から

寺島 直美さん

療養支援看護学分野　療養支援看護学領域

現在、看護師としてケアミックス病院の地域相談連携室の退院支援を担当しています。在宅療養へ移行する患者さんやご家族が、地域で安心して療養生活が送れるようにサポートしています。看護師として長く働くうちに、「看護とは何か」「自分の看護スキルは」など、疑問や葛藤を抱えるようになり、自分の力だけでは解決できない壁にぶつかりました。そのような時、本学看護学研究科のホームページを目にする機会があり、教育方針や学びの環境に惹かれました。看護の在り方を学び、専門性を高めることで、疑問や葛藤の解決に繋がるのではないかと思い進学を決めました。2年間の学びを振り返ればレポートや研究は想像以上に大変でしたが、先生がたの指導で、論理的思考を導きだせるようになりました。教育体制は非常に充実していたと実感しています。いままでとは違った視点を持ち、行動できる自分に驚いています。そして、共に学ぶ仲間と出会えたことも一生の宝となりました。

学費・奨学金

初年度学費・その他、諸納金の詳細は本学ホームページまたは学生生活課までお問い合わせください。大学院生のための経済支援として給付型奨学金制度を設けています。

学生生活課
Tel 045-786-7012

大学院入試情報

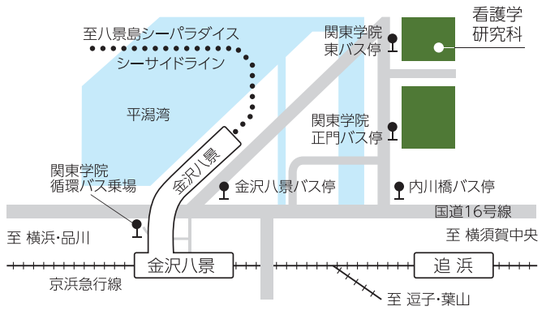
8月募集	2023.9.23(土)	出願期間：7/26(水)～8/1(火)必着
1月募集	2024.2.24(土)	出願期間：1/12(金)～1/19(金)必着

※詳細は、学生募集要項にてご確認ください。
※出願をご検討の場合は、事前にご相談ください。
※看護師免許のない方も出願できます。

試験区分／試験科目
- 一般入試：専門科目、英語、面接
- 社会人入試：英語、面接

https://ao.kanto-gakuin.ac.jp/
E-mail：nyushi@kanto-gakuin.ac.jp

入試に関するご相談は関東学院大学アドミッションズセンター Tel 045-786-7019
事務取扱時間／月～金曜 9:00～16:00（11:10～12:10を除く） 土曜 9:00～12:00（日・祝日・夏期・冬期休業期間を除く）



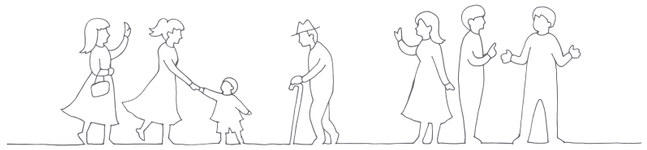
関東学院大学 大学院看護学研究科（横浜・金沢八景キャンパス）

https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/

〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1

●下車駅：京浜急行線・シーサイドライン「金沢八景駅」
「金沢八景駅」からキャンパスまで徒歩約15分
「関東学院循環」バス乗場から京浜急行バス（関東学院循環）で約5分
「関東学院東」下車すぐ〈運休期間あり〉、
または、「金沢八景」バス停から京浜急行バス（日産自動車前行き）で約5分
「内川橋」下車徒歩約5分

大学院
看護学研究科
看護学専攻



KGU 関東学院大学
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

関東学院大学 大学院看護学研究科

委員長あいさつ

新たな可能性を信じ、研究のプロセスを通じて解決していく方法を学ぶ

西岡 久美子 教授　看護学研究科委員長

関東学院大学大学院看護学研究科は2017年に開設しました。現在、3分野4領域で構成し、ライフスタイルにあわせた学修環境や学びを深める体制を整えています。特に、自らの専門領域を探求するために、専門分野の教員の他、臨床現場や専門分野で活躍されている方の招聘、多様な学問背景にあわせた多彩な共通科目・連携科目の履修など、研究科全体でアットホームな雰囲気の中で、じっくり、手厚く、研究の基礎から一連の流れで学んでいただくことが可能です。

私たちの生活のあらゆる場で活動する看護を学問として捉え、改めて大学院で学ぶことは、ご自身の新たな可能性を広げることへの第一歩になるでしょう。県内外・看護師資格の有無を問わず、より多くの方と看護に関連した現象や課題を語り合い、味わい、そして研究というプロセスを通じて解決策が導き出せるよう共に成長しましょう。そして修了時には知識や研究成果を皆さんの目指される現場に活用して頂けることを願い、教員一同お待ちしています。

●3分野4領域を擁する研究分野●

看護管理学分野	生活支援看護学分野		療養支援看護学分野
↓	↓	↓	↓
看護管理学領域	母性・小児看護学領域	高齢者・在宅看護学領域	療養支援看護学領域

●看護研究科　学びの特徴・制度●

昼夜開講制

ライフワークにあった就学ができる昼夜開講制を整備しています。

長期履修制度

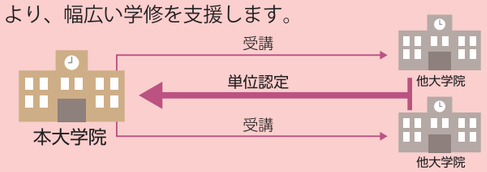
通常の修業年限（2年）と同じ授業料で3年間あるいは4年間かけて計画的に履修し、学位取得を目指します。

オンラインの活用

原則的には対面授業ですが、院生の勤務状況等によっては、オンラインを活用して学ぶことも可能です。

充実した学修環境

他研究科との連携科目や県内大学院学術交流協定を活用した履修が可能である他、多くの非常勤講師招聘により、幅広い学修を支援します。



【学位】看護学専攻 修士（看護学）　【入学定員】8人

看護学研究科の3つのポリシーについては、ホームページをご覧ください。

① アドミッション・ポリシー　② カリキュラム・ポリシー　③ ディプロマ・ポリシー

社会と人の幸福に貢献する
看護のスペシャリストをめざすあなたへ。

●担当教員　教育研究分野　領域・テーマ●

領域／看護管理学

テーマ
- 良い病棟風土を規定する要因とその形成過程
- 看護管理者育成のあり方と役割認識がスタッフに及ぼす影響

平田 明美 教授

質の高い看護を提供している組織は、スタッフが活き活きと働いています。そんな組織のマネジメントの基本は「ひとづくり」にあります。看護管理者の価値観や役割認識と、「ひと」への影響についてご一緒に考えてみませんか?

領域／母性・小児看護学

テーマ
- 思春期の女性及びカップルに健全な次世代育成のための支援に関する研究
- 周産期にある女性とその家族への支援に関する研究
- 更年期女性の健康生活支援に関する研究

坂梨　薫 教授

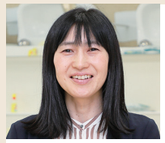
母性看護学は、思春期から更年期に至る女性とその家族に対し、健康逸脱予防や健康増進の支援を行い健全な次世代育成を目指しています。ウェルネスの考えを基に、母性看護を探求、開発・展開するための研究に一緒に取り組みましょう。

領域／母性・小児看護学

テーマ
- 子どもと家族への緩和ケアとシームレスな連携・環境に関する研究
- 子どもと家族のウエルネスライフに関する研究

永田 真弓 教授

小児保健・看護の研究テーマを探求していきましょう。講義では、NICU医師、小児看護CNS、こどもホスピス看護師、在宅クリニック医師などによる実践の紹介があり、テーマを考えるきっかけにもなります。これから小児分野に携わってみたいという方も歓迎します。



領域／母性・小児看護学

テーマ
- 小児慢性疾患の子ども・家族への支援
- 子どものウェルビーイング・メンタルヘルスプロモーションに関する研究

飯尾 美沙 准教授

小児慢性疾患を抱える子どもとその家族への支援について、看護学のみならず健康心理学の観点を含めて学際的なケアを探究します。病気の有無に関わらず、すべての子どものウェルビーイングについて、一緒に考えていきましょう。

領域／高齢者・在宅看護学

テーマ
- 高齢者と家族および介護者がよりよく生きるための支援
- リフレクションに関する研究
- ヤングケアラーと家族への支援

青木由美恵 教授

地域包括ケアシステム、地域共生社会の視点から、シームレスな医療・ケアの体制づくりに携わる多職種による講義を展開します。多様な生活の場における高齢者と家族のケアを一緒に考えましょう。

領域／療養支援看護学

テーマ
- 集中治療や救命救急医療をうける人と家族への緩和ケアと終末期ケアに関する研究
- 急性期における看護師の臨床判断とチーム連携に関する研究

木下 里美 教授

クリティカルケアと緩和ケア、急性期看護に関する研究に取り組みたい方、臨床の場での疑問や課題を、探求していきましょう。有意義な学びができるよう、サポートしていきたいと思います。

領域／療養支援看護学

テーマ
- 慢性腎臓病患者のエンパワメントの支援に関する研究
- 慢性疾患患者の看護ケアに関する研究

西岡久美子 教授

療養生活を必要とする人が、その人なりに生きていくことを支える看護について探究します。自分の看護を深めたり専門分野に看護を活用していくために、一緒に学んでいきましょう。

関東学院大学について

関東学院は、創立以来130年以上にわたり、横浜の地でキリスト教の精神に基づく人格教育を継承してきました。関東学院大学は、現在では11学部13学科9コース、5研究科を擁する総合大学として、その強みを生かした教育や研究活動に加え、地域・社会連携、国際貢献、学生スポーツ、文化活動、ボランティア活動なども活発に行われています。

●研　究　環　境●

総合大学のメリットを生かした教育環境

総合大学の設備や環境を活用しながら、物事を深く探求することができます。計3つの図書館には豊富な蔵書や電子ブック・ジャーナルを取り揃えています。各キャンパスの蔵書やオンラインで複写依頼した論文を、看護学研究科の位置する図書館で受け取ることが可能です。

エテルニテ

図書館

▼自習室(院生室)

院生が自習・院生同士が交流できる学習室が、看護学研究科のある横浜・金沢八景キャンパスにあります。

▼コピーカード

資料準備や論文作成のための文献収集など、年間3000枚まで利用できる、コピーカードを配布しています。

▼研究成果の発表

研究成果を発表する場として、「関東学院大学看護学会誌」を発行しています。在籍中だけでなく、修了後にも投稿資格があります。

▼研究助成

申請された方は助成金を活用して、研究活動に必要な経費を得ることができます。